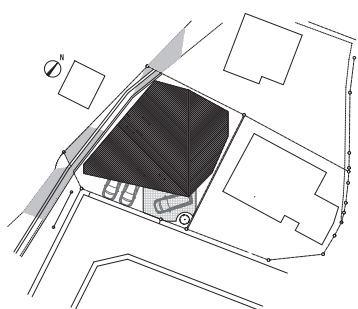


雨やどりの家



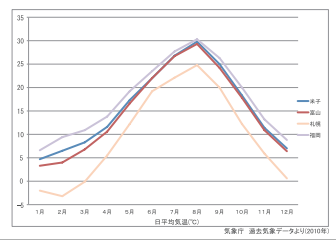
設計概要

建築地は山陰の米子市、国立公園大山の麓である。1年を通して雨が多いこの地域は、冬は冷たい北西風が吹きつけ、多雪地域でもある。また西側に対して高台になっているこの敷地は、景色がひろげられる代わりに強烈な西日を浴びる。そのような特徴的な敷地に夫婦と子供2人、新たに同居する奥様の母親を合わせた5人が住む住宅を計画した。適度な家族間のプライバシーを確保しつつ、夜勤のあるクライアントが家族の雑音を気にせず睡眠できる環境を実現するために、各部屋を分棟形式とすることでほどよい距離感を保っている。この分棟形式の各「イエ」の上に、通年の雨、冬の雪や北西風、夏の西日に対するバッファとして地面から伸びる切妻の折板屋根をかけた。同時にこの大屋根は近隣住宅からのプライバシー確保にも貢献する。また、大きく南側と西側に張出した大屋根により、太陽高度の高い夏期は直射日光を遮り、通風を確保することで涼しく快適な住空間となる。この大屋根はバラバラに分棟された家族の「イエ」を包み込むことで、家族間のつながりを感じられるだけでなく、住人は「イエ」から屋外のようなリビングに出てくことで、プライバシーが守られた開放的な空間を共有することができる。リビングはテラスと同素材の土間仕上げとし、空間に広がりとお興行を持たせ、壁の仕上げはそれぞれの家型ボリュームの外壁材となっている。これにより、家の中にいながら「外部」と「内部」をより強く感じることができる計画となっている。



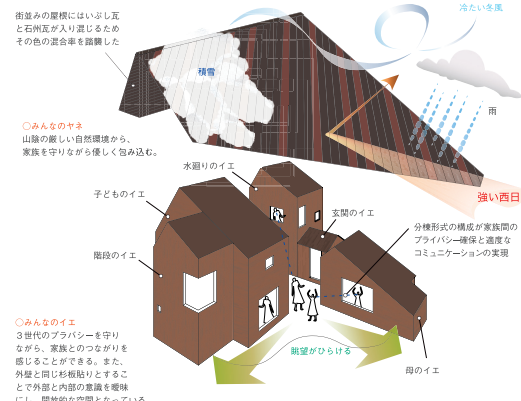
全面道路より見る 印象的な折板大屋根の下に「イエ」ボリュームが配されている

鳥取県米子市は日本海側気候で雨や雪が多く、豪雪地帯である。また、夏は福岡の気温と同等の値で、冬は全国の北陸の富山とほぼ同等の値である。

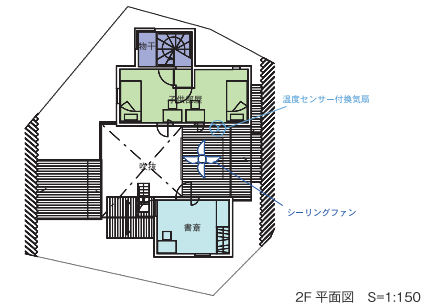


配置図 S=1:250

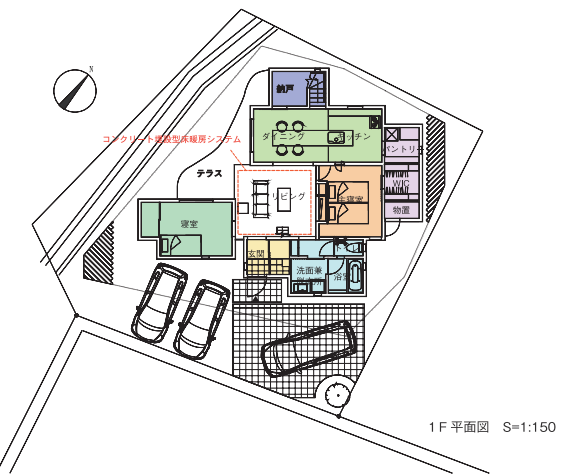
構成ダイアグラム



平面図

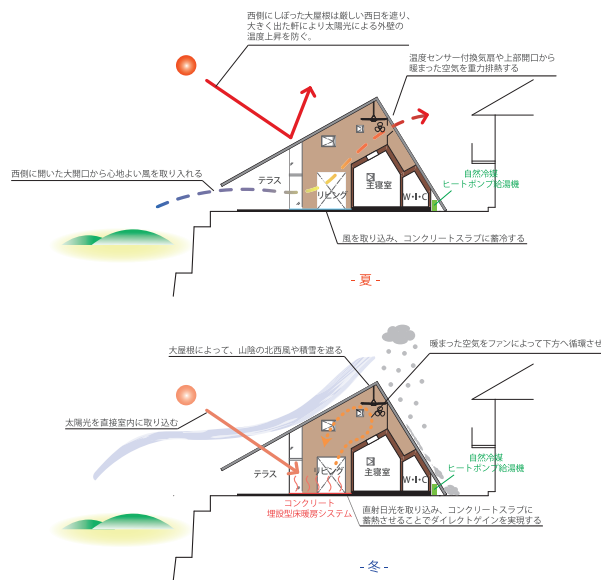


2F 平面図 S=1:150



1F 平面図 S=1:150

住環境ダイアグラム



遠景【南側から見る】敷地は高台に位置し、西側に開いている



遠景【西側から見る】強い西日を遮りつつ、冬の直射日光が室内に届くよう大屋根の角度を調整した



深さのある軒により外壁の温度上昇を防ぐ テラスからリビングを見る

(1) 住宅の長寿命化

大屋根が冬季の積雪や通年の雨、高台特有の強い風から建物全体を守るように架かっているため、軒に深さが生まれ玄関やテラスなどの積雪対策になり、つなぎ目の無い折半屋根が建物の雨仕舞いの問題を解消し、外壁が風雨にさらされにくく建物の耐久性を高めている。

(2) 省エネルギー

西側に対して高台となっており、太陽光を遮るものは無く西日が強烈で、冬は山陰からの冷たい北風や積雪に悩まされる特殊な立地条件ではあるが、そのような環境下でもエコ住宅としてエアコン等の電気設備にできるだけ頼らず、かつ快適に過ごすことが出来る住環境を計画することが重要だと考えた。

【大屋根】

建物全体を覆い、大きく南側と西側に張出し厳しい西日を遮断するための形状となっている。そして夏の高度の高い太陽光を遮断し、冬場の低い太陽光が直接リビングに射し込むように角度が調整され、リビングのモルタル床に蓄熱されることで、ダイレクトゲインを実現する。同時に最適な採光と通風を確保するため一部スリット状のポリカーボネート折板、ヴォイドを設けている。

【分棟されたイエボリューム】

生活リズムが異なる家族に対し、程よい距離感を確保するため、イエ型のボリュームによって分棟されたプランとした。それらは用途によってプロポーションが異なり、それによって生み出される隙間によって外部から光がやわらかくこぼれ、同時に風の通り道となる。そのイエボリュームに囲まれるようにリビングが存在し、最大天井高さは7.5Mのほりに、最上部の開口や温度センサー換気扇から排熱することで夏場の室内環境を快適にしている。

(3) 省資源・資源循環

【自然と共生する大屋根】

CO2の排出を抑えエコ住宅を実現するため、大屋根を計画した。太陽光を効果的に活用するために角度と形状が調整された大屋根は、適度な採光と通風を確保し、自然と共生された快適な住環境を生み出す。

【分棟形式によるライフサイクルへの対応】

各居室が分棟されているため、現在母親が使用している部屋を将来的に子世帯の寝室として使用することや、子供室を孫の部屋として使用する等、ライフサイクルの変化に応じて対応することが可能であり、世帯間の心理的な距離感も程よく保てるようなプランとなっている。

(4) その他の工夫

【プライバシーの確保】

大屋根は周辺環境からの視線を遮断し、プライバシーを確保する役割も担う。そして分棟されたイエボリュームは生活リズムの異なる家族間の距離感を適度に保つことが出来るとともに大屋根に覆われた一つの空間として繋がることで一体感を生み出すことが出来る。そして、用途によってプロポーションが異なるイエボリュームは各空間とつながる小窓を設け、家族間の立体的なコミュニケーションを実現している。

【外部環境との関係】

高台に位置する敷地のため西日を遮るものがなく西側の眺望は広く開けているが、西日を強く受ける。よって周辺の山々や眼下に広がる街並を見渡せるよう西側に大きな開口を設け、西日を遮断する大屋根によって、開放的な空間を演出するとともに自然光と風を取り入れることが出来る。また、印象的な大屋根の配色は、周囲の瓦屋根(石州瓦といふ瓦)の色調を踏襲し、景観を崩さないよう周辺環境に配慮した。



リビングからテラスを見る 対側の緑を借景として採り込み、床仕上げに連続性を持たせることで床面積以上の開放感を生む



立体的な空間構成により家族間の多様なコミュニケーションを助長する



ダイニングからリビングを見る

子供室からリビングを見下ろす「イエ」の隙間から自然光が入り込む

作品名 雨やどりの家

所在地 鳥取県米子市

設計監理 株式会社 y+m design office

三宅 正浩・吉本 英正

構造設計 天野一級建築構造設計事務所

天野 悦治

施工者 株式会社 平田組 (ASJ 米子スタジオ)

構造 木造軸組構法

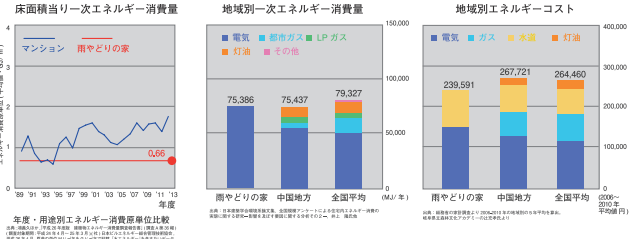
階数 地上2階建て

敷地面積 250.91 m²

建築面積 119.85 m²

延床面積 115.06 m²

竣工年月 2012年12月



年度・用途別エネルギー消費原単位比較 (2011年) 1000kWh/㎡・年 (2011年) 1000kWh/㎡・年 (2011年) 1000kWh/㎡・年